

# 石垣島で採集されたクシヒゲクロツツコメツキについて

鈴木 互

〒 211-0031 川崎市中原区木月大町 6-1 法政大学第二高等学校生物科 (wsuzuki@hosei2.ed.jp)

## Notes on *Cussolenis mutabilis* (Bonvouloir) (Coleoptera: Elateridae) collected from Ishigaki-jima Island of the Ryukyu Islands, Japan

Wataru SUZUKI

Summary. *Cussolenis mutabilis* (Bonvouloir) is widely distributed in Southeast Asia, Australia and New Caledonia. In Japan, it has been recorded only once from Ishigaki-jima Island (Nakane, 1987a). In this short paper, it is recorded from the same island for the second time, and briefly described and illustrated.

*Cussolenis mutabilis* (Bonvouloir, 1875) は、東南アジアからオーストラリアに広く分布する種であるが、コメツキムシとしては少し変わった格好をしている。円筒形の体、雌雄共に櫛歯になった短い触角とそれを受け入れる前胸腹板線に存在する深いポケット、そして軍配のように広がった脛節は、他のコメツキムシにはみられない特徴である。最近の研究では、コメツキムシ科として扱われているが、コメツキダマシ科 Eucnemidae やヒゲブトコメツキムシ科 Throscidae として扱われていたこともあった。東南アジアでは、灯火で得られる機会も少なくないようであるが、日本国内では、1974年7月5日に石垣島のバナ岳で滝沢春雄氏により採集された1雌個体の記録があるに過ぎない(中根, 1987a)。

最近、青木淳一博士からいただいたコメツキムシ類の標本の中から、本種を見いだすことができたので、ここにその形態を図示し、紹介したい。

発表するに当たり、貴重な標本をご恵与くださった東京都の青木淳一博士、文献入手でお世話になったウイスコンシン州の Robert L. Otto 博士に厚くお礼申し上げる。

### クシヒゲクロツツコメツキ

#### *Cussolenis mutabilis* (Bonvouloir, 1875)

(Figs. 1-5)

*Soleniscus mutabilis* Bonvouloir, 1875: 828, pl. 40, fig. 3 (Sarawak, Singapour, Arou, Batchian, Ceram, Dore, Sumatra, Ternate, Sumatra, Presqu'île des Malais, Java); Fleutiaux, 1901: 648.

*Cussolenis mutabilis*: Fleutiaux, 1920: 95 (Malaisie, Mélanésie, N. Calédonié); Fleutiaux, 1926a: 85 & 88; Fleutiaux, 1926b: 30 (Philippines); Gardner, 1936: 3-5 [larva] (Bengal); Fleutiaux, 1947: 5-6 (Tonkin); Nakane, 1987a: 138 (Ishigaki-jima Is.); Nakane, 1987b: 8;

Calder, 1996 (Australia).

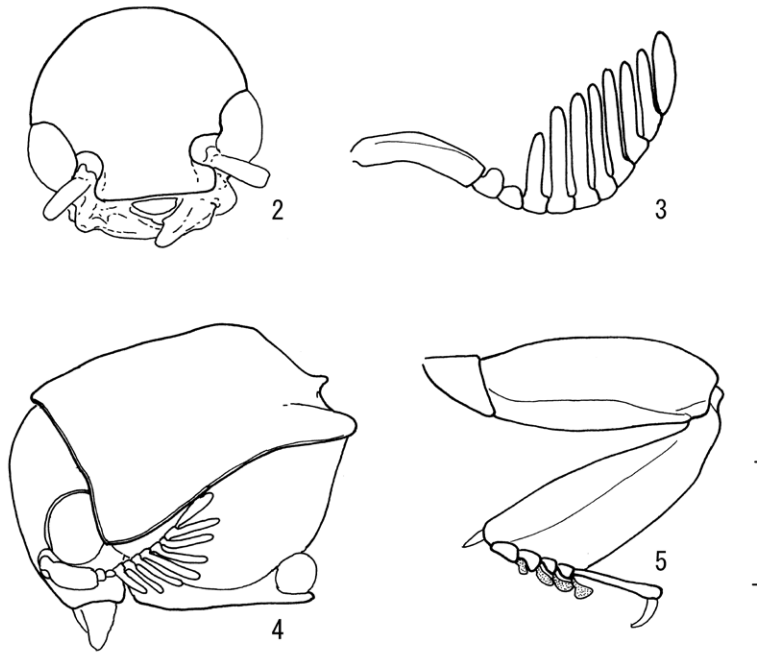
検視標本: 1♀, 10. XI. 2013, 沖縄県石垣島嵩田植物園, 福本三千円採集 (筆者保管)。

外部形態. 体長: 5-15 mm. 体は円筒形で、両側は平行。背面は暗赤褐色~黒色で、腹面はやや明るく、触角および脚は赤褐色。毛は細く、淡黄色で、背面ではやや直立する。頭部は網目状に点刻されるが、一部はアラメ状となる。頭楯前縁はほぼ直線状で、狭く縁取られる。上唇は小さく、半円状 (Fig. 2)。触角 (Fig. 3) は第1節が長く、2-5節の合計よりも長い、2節は亜球状で幅広く、3節より大きい、4-10節は強く櫛歯状となる。前胸背板は強く膨隆し、前縁と側縁は狭く縁取られる (Fig. 4)、表面は小さな歯突起を伴った点刻を密

布し、一部ではあばた状となる。基部中央には平滑で短い縦溝をもつ。小楯板は心臟形。上翅は小点刻を疎らに装い、基部では歯突起を伴った点刻となる。脚は短く脛節背面に附節を受け入れる浅い溝をもつ (Fig. 5)。附節は1-4節下面に膜状の葉片を持ち、5節は細長く、1-4節の合計にほぼ等しい (Fig. 5)。後脚基節板は、ほぼ並行状で狭く、後縁はゆ



Fig. 1. *Cussolenis mutabilis* (Bonvouloir) from Ishigaki-jima Island, southwestern Japan, ♀.



Figs. 2–5. *Cussolenis mutabilis* (Bonvouloir) from Ishigaki-jima Island, southwestern Japan, ♀, 2, head, frontal view; 3, right antenna; 4, head and prothorax, lateral view; 5, right fore leg, dorsal view. Scale: 0.88 mm for 2 & 4; 0.49 mm for 3 & 5.

るやかに波曲する。腹部腹板末端はやや鈍く尖る。

分布。日本（石垣島）；インド，インドシナ半島，マレー半島，シンガポール，フィリピン，ボルネオ，ジャワ，モルッカ，アル，ニューギニア，オーストラリア，ニューカレドニア。

備考。中根（1987a）は本種を日本から発見した際，コメツキダマシ科の種として紹介し，和名としてクシヒゲクロツツコメツキダマシを提唱された。しかし，幼虫の形態的特徴からみた結果（Gardner, 1936）や近年の系統学的研究の結果，現在ではコメツキムシ科として扱われているので（Vahtera *et al.*, 2009；Costa *et al.*, 2010），和名もそれに合わせクシヒゲクロツツコメツキと改めたい。なお，本種の和名については，中根（1987a, b）以外には使われた機会がないため，この措置により混乱が生じることは，ほとんどないと思われる。

日本に生息するコメツキムシとは，体が黒く，筒状であること，触角は雌雄ともに3節より長く櫛歯状となること，前脚脛節は，板状に平圧されること，跗節第1–4節下面には膜状片を備えることなどにより，識別は容易である。体形が筒状で触角が櫛歯状となる点では，コメツキダマシ科のカクムネコメツキダマシ属 *Melasis* の雄に似るが，頭部前方から見ると，上唇がはっきり確認できることや跗節の構造により，容易に識別することができる。

本種が所属するツツコメツキ亜科 Thylacosterninae は，アフリカ，アジア，ニューカレドニア，オーストラリア，南米から5属45種が知られているが（Vahtera *et al.*, 2009），日本からはクシヒゲクロツツコメツキ1種のみが産する。

本種の幼虫は，国内では未知であるが，インド（ベンガル州）では，コメツキダマシ科の *Adelothyreus bengalensis* Fleutiaux や *Arhipis orientalis* Fleutiaux の幼虫が入った朽木から発見され記載されている。幼虫は，口器がよく発達しており，大顎は内側にしっかりとかみ合わせること

ができる。脚は短いがしっかりとしているなど，コメツキムシの特徴をもつ。幼虫の食性については，採集者によりコメツキダマシの若齢幼虫を捕食しているのが観察されていることから，一般のコメツキムシと同様に捕食性であろうと考えられている（Gardner, 1936）。

#### 引用文献

- Bonvouloir, H. A. d., 1875. Monographie de la Famille des Eucnémides, parts 3–4. Annales de la Société Entomologique de France, 40(Supplement): 561–907, pls. 37–42.
- Calder, A.A., 1996. Click beetles: Genera of Australian Elateridae (Coleoptera). Monographs on Invertebrate Taxonomy, 2. X+401 pp.
- Costa, C., J. F. Lawrence & S. P. Rosa, 2010. Elateridae Leach, 1815. In Leschen, R.A.B., R.G. Beutel, & J. F. Lawrence (eds.), Handbook of Zoology, Arthropoda: Insecta, Coleoptera, Beetles, 2: Morphology and systematics (Elateroidea, Bostrichiformia, Cucujiformia partim): 75–103.
- Fleutiaux, E., 1901. Essai d'une classification des Melasinae (Eucnemidane des auteurs). Annales de la Société Entomologique de France, 1901: 636–664.
- Fleutiaux, E., 1920. Études sur le Melasidae (Coleoptera-Serricornia), 1. Annales de la Société Entomologique de Belgique, 51: 93–104.
- Fleutiaux, E., 1926a. Coup d'œil sur les espèces du genre *Cussolenis* (Melasidae) et descriptions de trois formes nouvelles. Encyclopédie Entomologique, Série B. I, Coleoptera, 1(2): 85–90.
- Fleutiaux, E., 1926b. Catalogue raisonné des Melasidae des îles Philippines. Annales de la Société Entomologique de France,

44: 29–90.

Fleutiaux, E., 1947. Révision des Eucnémidés (Coléoptères) de l'Indochine Française. Notes d'Entomologie Chinoise, 11(1): 1–68.

Gardner, J. C. M., 1936. A larva of the subfamily Balginae (Col., Elateridae). Proceedings of the Royal Entomological Society of London, (B), 5: 3–5.

中根猛彦, 1987a (Nakane, 1987a). 日本未記録のコメツキダマ

シの1種. 北九州の昆虫, 34: 138.

中根猛彦, 1987b (Nakane, 1987b). 日本のコメツキダマシ類についての覚え書き. 月刊むし, (198): 7–11.

Vahera, V., J. Muona & J. F. Lawrence, 2009. Phylogeny of the Thylacosterninae (Coleoptera, Elateridae). Cladistics, 25: 147–160.

(2016年1月18日受領, 2016年2月26日受理)

### 【短報】九州からのヤマトオサムシダマシの一採集例

ヤマトオサムシダマシ *Blaps (Blaps) japonensis japonensis* Marseul, 1879 は、環境省のレッドデータブックに準絶滅危惧種として掲載されているゴミムシダマシ科の甲虫である。

国内では本州、四国、九州から分布が知られる(中根, 1963; 中條・安藤, 1985)。旧北区の甲虫カタログのゴミムシダマシ上科を扱った巻の該当箇所によれば、タイプ名義亜種が日本のほか、中国の北京市と遼寧省、朝鮮半島に、亜種 *B. (B.) j. szetschwana* Schuster, 1923 が中国のより南部の安徽省、福建省、貴州省、江蘇省、四川省、雲南省に分布するとされる。ほかに、どの亜種に当たるかは不明だが、台湾からも生息情報があるようである。

先般、日本甲虫学会の第6回大会と日本昆虫分類学会18回大会の合同大会が北九州市立自然史・歴史博物館で開催され、期間中に「大阪ヤマトオサムシダマシ保存会」によるポスター発表があった。保存会の山本勝也氏によると、図鑑(中根, 1963; 中條・安藤, 1985)には九州にも分布するとの記述はあるものの、データをともなう具体的

な記録は見当たらないようである。

筆者はかつて本種の九州産の標本を所持していた。その標本を保管してくださっていた遠藤千秋氏に事情を説明したところ、氏から当該標本を譲り受けたので、データを添えて報告する。

1♂, 鹿児島県始良郡蒲生町, 18. IV. 1987, 亀澤稔採集, 筆者保管。

採集者は筆者の

父である。当時、仕事で鹿児島県始良郡(現、始良市)に出かける父に毒ピンを押しつけ、採集してきたものの一部に含まれていた。確認状況を実家に問い合わせたところ、民家の庭先で地面を歩行していた個体を採集したとのことだった。旅先のことで、いまとっては採集地点の詳細も、環境が様変わりしているのかもよくわからない。

末筆ながら、遠藤千秋氏(秦野市)と発表を勧めてくださいった保存会の山本勝也氏に心よりお礼申し上げる。

### 引用文献

中條道崇・安藤清志, 1985. ゴミムシダマシ科. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著, 原色日本甲虫図鑑(III), 295–341 pp., 保育社.

岸本年郎・高桑正敏, 2015. ヤマトオサムシダマシ. P. 405, 環境省編, レッドデータブック2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—5, 昆虫類, ぎょうせい.

Löbl, I., Nabozhenko, M. and O. Merkl, 2008. Blaptini, Tenebrionidae. 219–238 pp., Löbl, I. and A. Smetana eds., Catalogue of Palaearctic Coleoptera, volume 5, Apollo Books.

中根猛彦, 1963. ゴミムシダマシ科. 220–233 pp, 中根猛彦, 大林一夫, 野村 鎮, 黒沢良彦共著, 原色昆虫大図鑑[第2巻], 北隆館.

(亀澤 洋 350-0825 川崎市月吉町 32-17)



図1. 鹿児島県産ヤマトオサムシダマシ♂(スケールは5mm)。

### 昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6号, 有頭ダブル針も出来ました。その他, 採集, 製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒142-0051

東京都品川区平塚2丁目5番8号

郵便振替 00130-4-21129

電話 (03) 5858-6401 (ムシは一番)

FAX (03) 3784-6464

(カタログ贈呈) (株) 志賀昆虫普及社